

特別プログラム 療養病床におけるターミナルケア ～ 終末期に行う医療の範囲を考える～

【コーディネーター】 中川 翼、藤田博司

【主旨】

2006年7月からの慢性期医療診療報酬体系の大改革により「病院は医療を行うところ」というメッセージが明瞭に示された。医療区分3に該当する条件として「24時間の持続点滴」、「IVH」、「人工呼吸器装着」、「酸素吸入」等が挙げられている。また、これまで以上に在宅、特別養護老人ホーム、老人保健施設におけるターミナルケアの可能性についても論議されてきている。これらの動きの中で、医師が終末期にどのような医療行為を行うのが妥当であるのか、つまり、「終末期に行う医療の範囲」について改めて関心がもたれてきている。

従って、京都大会では「療養病床におけるターミナルケア～終末期に行う医療の範囲を考える～」をテーマに特別企画を立ててみた。テーマから考えてシンポジストはすべて医師に依頼した。しかしながら、このテーマは療養病床で働く看護・介護職員を始めすべての職員に取り極めて重要なテーマであろう。

討論時間は充分確保してあるので、シンポジストとフロアの皆様が一体となってこの問題を考えて見たいと思う。

多くの皆様のご参加を心から期待している。

【プログラム 9月7日(木)・13:15～15:45】

13:15～14:30 発表「私の考える終末期の医療の範囲」(各15分)

在宅・特別養護老人ホームの終末期に関わって
齊藤克子(安比奈クリニック 院長)

療養病床の終末期に関わって
高野喜久雄(総泉病院 院長)
有吉通泰(有吉病院 理事長)
宮岸隆司(西円山病院 神経内科診療部長)
藤田博司(光風園病院 副院長)

14:30～15:45 シンポジウム「療養病床におけるターミナルケア
～ 終末期に行う医療の範囲を考える～」

【シンポジスト】 上記発表者5名

【司会】 中川 翼(定山溪病院 院長)